A-3 ウズベク語において推量を表す二つの分析的形式にはどのような差異があるか

日高　晋介
(日本学術振興会特別研究員 PD／新潟大学)

［要旨］本発表では、ウズベク語 (チュルク諸語南東語群) の推量を表すモダリティ形式 *V-sa kerak* と *V-(i)sh mumkin* を取り扱う。文法書では両形式と意味の記述があり、日高 (2013) によるデータからは両形式が持つ蓋然性の違いが示唆される。ただし、文法書には形態統語的な分析が一切ない。また、日本語の推量「かもしれない」についての研究である三宅 (1992, 1995) は、可能性の観点から分析を行っているが、ウズベク語の先行研究にはその観点からの分析はない。本研究では、コーパス調査で形態統語的な特性について、母語話者への聞き取り調査で三宅 (1992, 1995) による観点と蓋然性の観点から、それぞれ分析・考察を行った。その結果、*V-sa kerak* は、その命題が真であるという主観的な推測を表し、*V-(i)sh mumkin* は、その命題が真である可能性も偽である可能性もあるという客観的な推測を表す、と結論付けた。

0.　はじめに

本研究では、ウズベク語 (チュルク諸語南東語群) において、推量を表すモダリティ形式 *V-sa kerak* [V-COND necessary] と *V-(i)sh/V-maslik mumkin* [V-VN/V-VN.NEG possible; 以後 *V-(i)sh mumkin* と表記] について、それぞれの差異を明らかにする。先行研究では、各形式と意味について記述があるものの、両形式にどのような差異があるか記述されていない。そこで、本研究では、web コーパスと母語話者からの聞き取り調査を通して、*V-sa kerak* と *V-(i)sh mumkin* の差異を明らかにする。

本発表の構成は次の通りである。1 節で先行研究を概観し、問題提起を行う。2 節でコーパス調査について、3 節で聞き取り調査について、各々の調査結果を分析し考察する。4 節で、各調査の考察をまとめ、結論を述べる。なお、本発表における例文番号・グロス・日本語訳・下線などの文字飾りはすべて発表者によるものである。

1.　先行研究と問題提起

1.1.　先行研究

本節では、まず Abdurahmonov et al. (1976), Kononov (1960), Bodrogligeti (2003) による *V-sa kerak* と *V-(i)sh mumkin* の記述と、日高 (2013) によるデータを概観する。

(1) *Qo'rq-qan* ***bo'l-sa-ø*** ***kerak!*** — *de-di-ø* *ohista Pavel.*
be.afraid-PTCP.PAST be-COND-3 necessary say-PAST-3 quietly PN
「『怖くなったんだろう！』とパベルは静かに言った。」
(Abdurahmonov et al. 1976: 110)

(2) *Domla-miz* *bizniki-ga* ***kel-ma-sa-ø*** ***kerak.***
teacher-1PL.POSS our.place-DAT come-NEG-COND-3 necessary
「私たちの先生は私たちのところに来ないだろう。」
(Bodrogligeti 2003: 878)

(3) *U-nda* *ochlik-dan* ***o'l-ish*** ***mumkin.***
3SG-LOC starving-ABL death-VN possible
「それで、飢えが原因で死ぬかもしれない。」
(Bodrogligeti 2003: 855)

V-sa kerak は、Kononov (1960: 398), Abdurahmonov et al. (1976: 110, 398, 401), Bodrogligeti (2003: 877-878) によれば、推量を表すという ((1), (2))。(2) では、*kel-*「来る」に付く *-ma* によって、動作の否定「来ない」が表されている。*V-(i)sh mumkin* は、Kononov (1960: 398-399, 401-402), Bodrogligeti (2003: 853-855) によれば、推量・許可・可能を表

すという。(3) に推量を表す例を挙げる。

V-(i)sh mumkin は、二パターンの否定を持つ。(4) と (5) にそれぞれのパターンの例を挙げる。(4) では否定動名詞 *V-maslik*「V しないこと」を用いることで動作不実行の推量が表され、他方、(5) では、*mumkin* の後に *emas*「～ではない」を用いることで不許可・不可能が表される。したがって、本発表では *mumkin* に *emas* が続く場合は取り扱わない。

(4) ***V-maslik*** ***mumkin***
V-VN.NEG possible
「～しないかもしれない」(Kononov 1960: 401)

(5) *Lekin bu kecha* ***bor-ish*** ***mumkin*** ***emas****, chunki…*
but this night go-VN possible NEG because
「しかし、今夜…行けない、なぜなら…」
(Kononov 1960: 402)

最後に、日髙 (2013) について述べる。日髙 (2013) はウズベク語の例文データ集であり、本発表ではその中のモダリティに関するデータ (2.3 節; pp.447-484) を取り扱う。これらのデータは、風間 (2011) による日本語の調査文をウズベク語母語話者が翻訳したものである。本発表に関する部分のみ挙げると、「～だろう」と「～のではないか」は *V-sa kerak* で、「する／しないかもしれない」は *V-(i)sh/V-maslik mumkin* に翻訳されている。

1.2. 問題提起

前節では、ウズベク語の文法書 (Kononov 1960, Abdurahmonov et al. 1976, Bodrogligeti 2003) による *V-sa kerak* と *V-(i)sh mumkin* の記述を概観し、日髙 (2013) によるデータのうち、*V-sa kerak* と *V-(i)sh mumkin* が現れた部分を参照した。これらの調査文は風間 (2011) によるもので、蓋然性の高さを異なる形式によって表すかどうかを探るために用いられたものである。本節では、*V-sa kerak* と *V-(i)sh mumkin* が表す蓋然性を整理したのちに、先行研究の問題を挙げる。

風間 (2011: 40-41) は、確信「～はずだ」、推量「～だろう」、疑念「～のではないか」、可能性「かもしれない」の四つを指して、これらは広い意味で蓋然性を表す表現であり、話者には確信＞推量＞疑念＞可能性の順に実現可能性が低いと感じられているとみなせると述べている。(6) に、ウズベク語の蓋然性を表す例文 (日髙 2013: 480-481) を、風間 (2011) に即して整理して示す。(6) では、*V-sa kerak* が *V-(i)sh mumkin* よりも高い蓋然性が表されることが示唆されている。

(6) 風間 (2011) に即した、ウズベク語の蓋然性を表す形式の整理:

確信		推量・疑念		可能性
V-(i)sh kerak	＞	***V-sa kerak***	＞	***V-(i)sh/V-maslik mumkin***
「～はずだ」		「～だろう」 「～のではないか」		「する ／しないかもしれない」

文法書では、両形式と意味について記述はあるものの、各形式にどんな要素が前接・後接しやすいかなどの形態統語的な分析は一切ない。他方、日髙 (2013) のデータを整理した (6) からは、蓋然性の高低について示唆が得られる。しかし、日本語「かもしれない」について分析している三宅 (1992: 38) では、先行研究がもっぱら「かもしれない」の蓋然性の低さを問題にしていることを批判的に捉えており、「かもしれない」が一つの可能性として真であるという認識を表す形式であると結論付けている。本発表では、三宅 (1992) と同様に、両形式によって命題が真偽両方の可能性があるという認識を表せるのかどうかについて分析を行い、(6) から示唆される蓋然性についても分析を行う。

以上より、本研究は、形態統語的な分析・考察を行うためにコーパス調査を、両形式によって命題が真偽両方の可能性があるという認識を表せるのかどうかという問題と、蓋然性について分析・考察を行

うために聞き取り調査を、それぞれ行うことで、*V-sa kerak* と *V-(i)sh mumkin* の相違点を解明する。

2. コーパス調査

本節で調査の概要を述べてから、各小節で両形式について分析・考察する。

コーパスの概要は次の通りである。本発表の調査には、Sketch Engine (https://www.sketchengine.eu/) に所収されている Turkic web – Uzbek というウェブコーパスを用いた。このコーパスは 2012 年 1 月に .uz ドメインのウェブページからデータを集積したものであり、のべ語数は約 1800 万語である。

用例検索は、次の三つの手順で行った：1. Concordance にて、kerak* で検索する。2. 検索範囲を kerak の前 3 語に設定し、*sa*で絞り込み検索する。3. 対象外の用例を確認後、同様の例を検索する。

表 1: コーパスから抽出した用例数

形式	グロス	抽出数
V-sa kerak	V-COND necessary	1297
V-ma-sa kerak	V-NEG-COND necessary	534
V-(i)sh mumkin	V-VN possible	2974
V-maslik mumkin	V-VN.NEG possible	639

表 1 に、コーパス調査から抽出した用例数の一覧を挙げる。なお、*V-(i)sh mumkin* は可能・許可の例も含む。*V-maslik mumkin* は (4) で示したように、基本的に推測の例のみである (ただし、二重否定の例 *V-maslik mumkin emas*「～しないことはできない」が散見される)。

本節以降、*V-sa kerak* と *V-(i)sh mumkin* に後接する形式のうち、両者の間に差異が見られる形式に注目して分析を行う。前接形式には、両者に特に差異が見られなかったため、本発表では特に取り扱わない。なお、本節以後、*V-sa kerak* と *V-(i)sh mumkin* という表記は動詞語幹の否定形式 (*V-ma-sa kerak* と *V-maslik mumkin*) も含みうることに注意されたい。

2.1. 後接形式をもとにした分析

2.1.1. コピュラ動詞 *e-* あるいは *bo'l-*

まず、本節における分析の前提を述べる。形容詞である *kerak* と *mumkin* は、コピュラ動詞 *e-* あるいは *bo'l-* をもとにした形式を後接することで、テンス・否定・接続形式を形成する。例えば、*kerak* にコピュラ動詞を後接させると、*kerak* ***edi***「必要だった」、*kerak* ***emas***「必要ではない」*kerak* ***bo'lsa***「必要であるなら」となる。

(7) *... sog'liq-ni saqla-sh, transport va xizmat ko'rsati-sh soha-lar-i-da*
health-ACC keep-VN transport and service show-VN field-PL-3.POSS-LOC
ham qiyinchilik-lar-ni yuza-ga ***keltir-ish-i*** ***mumkin edi.***
also difficulties-PL-ACC surface-DAT bring-VN-3.POSS possible PAST
「(前略) ヘルスケア、輸送、サービスの分野で問題を生じさせる (lit. 問題を表面に持ってくる) かもしれなかった。」(ayol.uz)

(8) *Davlat, jamiyat va shaxs-ga jiddiy ekologik, ijtimoiy va boshqa*
state society and person-DAT serious ecologic social and other
zarar yetkaz-ish-i mumkin bo'l-gan *ekologik xavf-lar-ni...*
harm bring-VN-3.POSS possible be-PTCP.PAST ecologic danger-PL-ACC
「国家、社会、および個人に、深刻な環境的、社会的およびその他の害を及ぼすかもしれない環境リスクを…」(meteo.uz)

次に、*V-sa kerak* と *V-(i)sh mumkin* にコピュラ動詞が後接する場合について述べる。コーパスから抽出された *V-sa kerak* の例 (1831 例) の中で、コピュラ動詞が後接する例は一例もない。一方、*V-(i)sh mumkin* では、「推測」と判断した用例にコピュラ動詞が後接しうる。例として、*V-(i)sh mumkin* の過去時制の例 (7) と、*V-(i)sh mumkin* が連体節述語と

して用いられている例 (8) を挙げる。(7) では、*V-(i)sh mumkin* にコピュラ動詞の過去形 *edi* が後接することで、過去の推測が表されている。(8) では、*V-(i)sh mumkin* にコピュラ動詞の過去形動詞 *bo'l-gan* が後接することで、*V-(i)sh mumkin* が連体節述語として機能している。

2.1.2. 文末小詞 =*da*［強調］, =*a*［確認］

文末小詞 =*da* は Bodrogligeti (2003: 1019-21) では「強調」を表すとされ、 =*a* は中嶋 (2015: 159) では「確認」を表すとされている。

(9) *Nima-ni=dir tushun-ma-gan* ***bo'l-sa-m kerak=da.***
what-ACC=INF understand-NEG-PTCP.PAST be-COND-1SG necessary=EMPH
「私は何かを理解しなかったでしょうね。」(filmlar.uz)

(10) *O'sha-nda qo'rq-qan* ***bo'l-sa-ngiz kerak=a?***
that-LOC be.afraid-PTCP.PAST be-COND-2PL necessary=CONF
「その時、あなたは怖かったでしょう？」(uzbekistonovozi.uz)

(11) *Qorn-ing ham och* ***bo'l-sa-ø kerak?***
stomach-2SG.POSS also open be-COND-3 neccesary
「(君の) お腹も空いているでしょう？」(tongyulduzi.uz)

左記に、文末小詞 =*da*［強調］, =*a*［確認］が後接する例を挙げる。コーパスから抽出された *V-(i)sh mumkin* (2974 例) と *V-maslik mumkin* (639 例) の中で、上記の文末小詞が後接する例はない。左記 (9) ～ (10) の *V-sa kerak* には=*da*［強調］あるいは=*a*［確認］が後接している。なお、(11) では、話し手は =*a*［確認］なしで聞き手に問いかけている。

2.2. 考察

本節では、2.1.1 節と2.1.2 節で述べたコーパス調査における結果の分析をまとめ、両形式の差異について議論する。表 2 に分析結果をまとめる。

表 2: コーパス調査における分析のまとめ

形式	後接要素	
	コピュラ動詞 *e-, bo'l-*	文末小詞 =*da*［強調］, =*a*［確認］
V-sa kerak [V-COND necessary]	×	○
V-(i)sh mumkin [V-VN possible]	○	×

まず、「コピュラ動詞 *e-* あるいは *bo'l-*」について述べる。コピュラ動詞の後接は、*V-sa kerak* にはなく、*V-(i)sh mumkin* にはあること ((7), (8)) が明らかとなった。金田一 (2004) は、日本語の助動詞「う」「よう」「まい」「だろう」が、感動助詞「よ」「わ」「さ」と同じように、終止形のみを持ち、かつ文末にのみ位置することを根拠に、話者のその時の心理を主観的に表現する、と述べている。このことから、コピュラ動詞の後接がある *V-sa kerak* は主観的な推測を表し、コピュラ動詞の後接がない *V-(i)sh mumkin* は客観的な推測を表していると想定される。

「文末小詞 =*da*［強調］, =*a*［確認］」でも同じように考えられる。*V-sa kerak* には二つの小詞とも後接しうるが ((9), (10))、*V-(i)sh mumkin* には後接しない。*V-sa kerak* には、=*a*［確認］なしで質問を表す用例 (11) もあり、*V-sa kerak* は聞き手の主観を尋ねることができると言える。このことから、*V-sa kerak* は主観的な

(12) ... *"Osteoporoz: nasl-dan nasl-ga* ***o't-ish-i mumkin=mi?"***
osteoporosis generation-ABL generation-DAT pass-VN-3.POSS possiple=Q
kabi qiziqarli maqola-lar-ni o'qi-sh-ingiz mumkin.
like interest article-PL-ACC read-VN-2PL.POSS possiple
「(前略)『骨粗しょう症: 世代から世代へ受け継がれうるのか』というような面白い記事が読めます。」(shou-biznes.uz)

推測を表すと考えられる。一方、*V-(i)sh mumkin* には=*da*［強調］, =*a*［確認］が後接しないが、典型的な疑問を表す =*mi* と共起する (2974 例中 5 例)。ただし、(12) でも他の 4 例でも、聞き手の主観を問うていない。つまり、*V-(i)sh mumkin* は客観的な推測を表すと言える。

3. 聞き取り調査

本節では、二種類の聞き取り調査を行う。3.1 節では、両形式がある命題が真でも偽でもある可能性を表せるのかどうかという観点から、真偽二つが並列した命題を持つ文を日本語からウズベク語へ翻訳してもらう (全六例) という調査を行う。3.2 節では、蓋然性の観点から、ある文の副詞を固定し述部を入れ替えたのちに、容認度を判断してもらうという調査を行う。インフォーマントは、ウズベク語母語話者一名 (1989 年生、男性、タシケント市出身) である。

3.1. 真偽二つが並列した命題を含む文の翻訳

本節では、1.2 節でも触れた、日本語の「だろう」と「かもしれない」の差異について分析・考察している三宅 (1992, 1995) を参考にして調査を行う。

三宅 (1992, 1995) では、下記の三つの場合に、「だろう」が許容されず、「かもしれない」のみ許容されるという。①同時に真であることができない命題:「明日は雨が<u>降るかもしれない</u>し、<u>降らないかもしれない</u>。」②話し手の信念では真 (偽) だが、実際は偽 (真) である可能性もある命題:「それは<u>嘘かもしれない</u>が、私は本当だと思う。」③話し手がコントロール可能な動作を行うことを聞き手に報告する場合: A「明日も電話してくれる？」B「明日は<u>電話しないかもしれない</u>」これらの結果から、「かもしれない」は、一つの可能性として命題が真であるとの認識を表すと結論付けている。

本発表での調査は、① ～ ③ の日本語文を提示し翻訳してもらったのちに、推量を表す述部を入れ替えて、その文が許容されるかどうかを尋ねるという手順で行った。① ～ ③ の日本語文は全て *V-(i)sh mumkin* で翻訳されたが、*V-sa kerak* に入れ替えたところ、全て非文だと判断された。

(13) ①「明日は雨が<u>降るかもしれない</u>し、<u>降らないかもしれない</u>。」

Ertaga yomg'ir ***yog'-ish-i*** ***ham mumkin***, ***yog'-maslig-i*** ***ham mumkin***.
tomorrow rain rain-VN-3.POSS also possible rain-VN.NEG-3.POSS also possible

(14) ②「それは<u>嘘かもしれない</u>が、私は本当だと思う。」

Bu ***yolg'on*** ***bo'l-ish-i*** ***ham*** ***mumkin***, *lekin men rost deb o'yla-y=man.*
this lie be-VN-3.POSS also possible but 1SG true QT think-NPST=1SG

(15) ③ A「明日も電話してくれる？」B「明日は<u>電話しないかもしれない</u>」

A: *Ertaga ham telefon qil-a=san=mi?*
tomorrow also telephone do-NPST=2PL=Q

B: *Ertaga* ***telefon*** ***qil-maslig-im*** ***mumkin***.
tomorrow telephone do-VN.NEG-1SG.POSS possible

3.2. 副詞を固定し述部を入れ替えた文の容認度調査

1.1 節 (6) の「推量・疑念 *V-sa kerak*「～だろう」＞可能性 *V-(i)sh/V-maslik mumkin*「する／しないかもしれない」」から、*V-(i)sh mumkin* よりも *V-sa kerak* のほうが、高い蓋然性を表すことが予想される。そのため、まず *V-sa kerak* をインターネット検索し、蓋然性に関わる副詞が共起している例を探す。(16a) に高い蓋然性を表す副詞の例を、(17a) に低い蓋然性を表す副詞の例を挙げる。下線部は副詞を指す。

(16) a. *Har qanday o'qituvchi uchun, shubhasiz bu eng qiziq* ***masala***
every how teacher for doubtless this most interesting issue

bo'l-sa-ø kerak.
be-COND-3 necessary
「どんな先生にとっても、間違いなく、これは最も面白い問題だろう」
(http://marifat.uz/marifat/ruknlar/umumii-urta-talim/3535.htm［最終閲覧日: 2022/09/20］)

(16a) では、高い蓋然性を表す副詞 *shubhasiz*「間違いなく」と *V-sa kerak* が共起している。

(17) a. *Balki katta bo'l-ib ona-m-ni qadr-i-ni yaxshi-roq bil-a*
maybe big be-CVB.PFV mother-1SG.POSS-GEN value-3.POSS-ACC good-COMP know-CVB.IPFV

boshla-gan-im ***sabab bo'l-sa-ø kerak.***
start-PTCP.PAST-1SG.POSS reason be-COND-3 necessary
「おそらく私が大きくなって母の価値をよりよく知り始めたことが原因でしょう」
(https://mobile.twitter.com/nizomuddinova02/status/1539284436327489536［最終閲覧日: 2022/09/20］)

(17a) では、低い蓋然性を表す副詞 *balki*「おそらく」と *V-sa kerak* が共起している。

(16) b. *... *shubhasiz bu eng qiziq* ***masala bo'l-ish-i mumkin.***
doubtless this most interesting issue be-COND-3 possible
［意図した読み：(前略) 間違いなく、これは最も面白い問題だろう］

(17) b. *Balki* ... ***sabab bo'l-ish-i mumkin.***
maybe reason be-COND-3 possible
「おそらく (中略) 原因かもしれない。」

次に、(16a) と (17a) の *V-sa kerak*を*V-(i)sh mumkin* に入れ替える。(16b) は非文であるとインフォーマントが判断し、他方、(17b) は許容された。したがって、*V-(i)sh mumkin*は高い蓋然性を表す副詞 *shubhasiz*「間違いなく」とは共起しないが、低い蓋然性を表す副詞*balki*「おそらく」とは共起できると言える。

3.3. 考察

表 3: 聞き取り調査における分析のまとめ

形式	相反した並列命題の翻訳	副詞との共起	
		低蓋然性	高蓋然性
V-sa kerak [V-COND necessary]	×	○	○
V-(i)sh mumkin [V-VN possible]	○	○	×

本節では、3.1 節と3.2 節で述べた聞き取り調査における結果の分析をまとめ、両形式の差異について議論する。

表 3 に分析結果をまとめる。「相反した並列命題の翻訳」では、並列された命題の述部は、*V-sa kerak* で翻訳できず、*V-(i)sh mumkin* で翻訳される ((13)～(15))。「副詞との共起」では、*V-sa kerak* は高低どちらの蓋然性を表す副詞も共起可能だが ((16a), (17a))、*V-(i)sh mumkin* は低い蓋然性を表す副詞しか共起できない ((16b), (17b))。

以上の分析結果より、*V-(i)sh mumkin* は、低い蓋然性を表し、命題が真偽両方である可能性を表しうることが明らかとなった。したがって、*V-(i)sh mumkin* は、その命題が真である可能性も、偽である可能性もあると、話し手が想定していることを表すと言える。

4. 結論

まず、*V-sa kerak* について、本発表での考察をまとめ直し、結論を述べる。コーパス調査において、コピュラ動詞の後接がないことから話者のその時の心理を表すことと、文末小詞 *=da*［強調］, *=a*［確認］が後接し、小詞なしでも「確認」を表すことから、相手の主観を問えることを明らかにした。以上から、*V-sa kerak* は、主観的な推測を表すと考えられる。聞き取り調査においては、相反した並列命題の翻訳で用いられないことから、命題が真であると推測していることを表すと考えられる。したがって、*V-sa kerak* はその命題が真であるという主観的な推測を表す、と結論付ける。

最後に、*V-(i)sh mumkin* について同様に述べる。コーパス調査において、コピュラ動詞が後接しうることから話者のその時の心理を表すわけではないことと、文末小詞 *=da*［強調］, *=a*［確認］が後接せず、*=mi* を用いた疑問文でも相手の主観を問うてないことから、*V-(i)sh mumkin* は客観的な推測を表すと考えられると述べた。聞き取り調査においては、相反した並列命題の翻訳で用いられ、低い蓋然性を表す副詞としか共起しないことから、*V-(i)sh mumkin* はその命題が真偽両方である可能性を表すと考えられると述べた。したがって、*V-(i)sh mumkin* はその命題が真である可能性も偽である可能性もあるという客観的な推測を表す、と結論付ける。

5. おわりに

最後に今後の課題を述べる。本研究は、ウズベク語のモダリティ体系の解明を目指すための端緒である。そのためには、本発表に関連する次の a. ~ c.の解明を進める必要があろう: a. 確言と推量の差異: *V-(i)sh kerak* [V-VN necessary]「～はずだ」vs. *V-sa kerak*「～だろう」、b. 可能形式が表せる意味範囲: *V-a/-y ol-* [V-CVB.IPFV take] vs. *V-(i)sh mumkin* etc.、c. 文末小詞が持つ機能。

謝辞：予稿を作成するにあたって、長屋尚典氏、菱山湧人氏、Ogan Yaylıoğlu 氏、吉田樹生氏から有益なコメントを頂いた。深く感謝申し上げる。ただし、本発表における全ての過失は全て発表者に帰する。なお、本研究は JSPS 科研費 JP22J01538 の助成を受けている。

略号一覧 (Leipzig Glossing Rules に記載されていないもののみ掲載)

COMP (comparative) 比較級／CONF (confirmation) 確認／EMPH (emphatic) 強調／INF (indefinite) 不定／PN (proper name) 固有名詞／QT (quotation) 引用／VN (verbal noun) 動名詞

参考文献

Abdurahmonov, G‘. A. va Sh. Sh. Shoabdurahmonov, A. P. Hojiyev (1976) *O‘zbek tili grammatikasi II-tom Sintaksis.*［ウズベク語文法 第 2 巻 統語論］Toshkent: O‘zbekiston SSR “Fan” nashriyoti.／Bodrogligeti, András J. E. (2003) *An academic grammar of Modern Literary Uzbek*. München: Lincom Europa.／日髙晋介 (2013)「ウズベク語: 補遺データ (受動表現, ヴォイスとその周辺, モダリティ) (データ)」『語学研究所論集』18: 467–85.／風間伸次郎 (2011)「まえがき―テーマ企画: 特集「モダリティ」」『語学研究所論集』16: 29–55.／金田一春彦 (2004)「不變化助動詞の本質 ―主觀的表現と客觀的表現の別について―」『金田一春彦著作集 第 3 巻』303-351. 東京: 玉川大学出版部.［初出 : (1953)『国語国文』22(2): 1-18, 22(3): 15–35.］／Kononov, Andrej N. (1960) *Grammatika sovremennogo uzbekskogo literaturnogo jazyka.*［現代標準ウズベク語文法］Moskva, Leningrad: Izdatel’stova akademii nauk SSSR.／三宅知宏 (1992)「認識的モダリティにおける可能性判断について」『待兼山論叢 日本学篇』26: 35–47._____ (1995)「カモシレナイとダロウ ― 概言の助動詞③ ―」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法 (上)』東京: くろしお出版. 197–200.／中嶋善輝 (2015)『簡明ウズベク語文法』大阪: 大阪大学出版会.

Web コーパス

Turkic web – Uzbek (https://www.sketchengine.eu/uzwac-uzbek-corpus/［最終閲覧日: 2022/09/23］)